岐　歯　学　誌
45巻1号　29～33
2018年7月

原　著

朝日大学PDI岐阜歯科診療所における訪問歯科診療の現状と課題
－高齢者の口腔内実態調査－

小嶋千栄子[1)]　服部景太[1)]　横矢隆二[1)]　小川雅之[2)]
堤由希子[1)]　若村全仁[2)]　中川晃輔[2)]　藤原周[1)]

Present activities and challenges point of homebound dentistry of Asahi University PDI Dental Clinic at Gifu
-Survey on intraoral condition for elderly-

Kojima Chieko[1)], Hattori Keita[1)], Yokoya Ryuji[1)], Ogawa Masayuki[2)], Tsutsumi Yukiko[1)], Wakamura Masahito[2)], Nakagawa Kosuke[2)], Fujiwara Shu[1)]

Ⅰ．目的

わが国は超高齢社会を迎え，要介護高齢者の増加とともに社会的環境も変化し，要介護高齢者への訪問歯科診療は今後，需要が増加すると考えられる．朝日大学PDI岐阜歯科診療所では，2012年11月から訪問歯科診療を実施しており，2015年6月までの2年8か月間に182名の患者の診療を行った．今回は，このうち65歳以上の訪問歯科診療の概要，問題点，今後の課題ならびに歯科治療へのニーズを検討した．

Ⅱ．対象と方法

対象者は，65歳以上の171名とした．調査項目は，性別，年齢，診療場所（居宅･施設），主訴，治療内容，基礎疾患，要介護度，歯科治療時の患者状況，義歯の使用状況について，診療録に基づいて検討を行った．

Ⅲ．結果と考察

調査対象者は男性57名，女性114名であり，最高齢者は99歳女性，最年少者は66歳男性であった．平均年齢は83.8歳で，75歳以上の対象者が全体の約9割を占めていた．診療場所は，居宅が40名，施設は131名であった．

主訴は，義歯に関するものが約半数を占め，治療内容は117名（68.4%）が義歯製作，義歯調整などの義歯による補綴治療を行っていた．対象者171名は全員何らかの基礎疾患を有しており，要介護認定者は156名いた．歯科診療時の患者状況では坐位の保持，意思疎通，含嗽ともに8割以上が可能であった．義歯を使用している者は，124名（72.5%）であった．

厚生労働省では2015年から「在宅医療・介護連携推進事業」を進めており，今後高齢者を対象とした施設が増えるだろう．訪問歯科診療は，義歯などの歯科治療だけではなく，専門的口腔ケアや摂食嚥下リハビリテーション等の機能訓練が増加すると考えられる．

キーワード：訪問歯科診療，要介護高齢者，専門的口腔ケア

I. Introduction

Japan has faced a super aging society and its environment has changed with the increase in number of elderly people who need long-term care and homebound dental care. It is expected that the needs of home-bound dental care for the elderly people will be further increased in the near future. In the Asahi University

[1)] 朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野
[2)] 朝日大学PDI岐阜歯科診療所
[1)] 〒501-0296　岐阜県瑞穂市穂積1851
[2)] 〒500-8309　岐阜県岐阜市都通5-15
[1)] *Department of Prosthodontics, Division of Oral Functional Science and Rehabilitation Asahi University School of Dentistry*
[2)] *Asahi University PDI Dental Clinic at Gifu*
[1)] *Hozumi 1851, Mizuho, Gifu 501-0296, JAPAN*
[2)] *Miyako dori 5-15, Gifu, Gifu 500-8309, JAPAN*
（平成30年3月23日受理）
本稿要旨は日本補綴歯科学会東海支部（2016年11月）において発表した．

PDI Dental Clinic at Gifu, department of homebound dentistry has been established since November 2012, and 182 patients received homebound dental treatment during 20 months until June 2015. Among them, we investigated the outlines, problems, future tasks and needs for over 65 years old patients in this study.

II. Materials and Methods

The subjects were 171 patients aged 65 or older. On the intraoral examination and the dental record, we examined about gender, age, dental treatment place (in-home / institute), main complaint, treatment details, underlying disease, degree of need for care, patient condition at treatment, and denture use situation.

III. Results and Discussion

Of the 171subjects, 57 were male and 114 were female. The highest age subject was a 99-year-old woman, and the lowest age was a 66-year-old man. The average age was 83.8 years old, and about 90% of the subjects were over 75 years old. Regarding the place of dental treatment, there were 40 subjects at home and 131 subjects in the facility. The main complaints were mostly related to dentures, and 117 subjects (68.4%) received prosthetic treatment with dental prostheses such as new denture made and denture adjustment. Almost all 171 subjects had underlying diseases and 156 subjects were certified as requiring nursing care. In the patient condition at the time of dental treatment, however, more than 80% of the patients were able to retain sitting position, communicate and wash the mouth, and the percentage of denture users was as high as 72.5%. Since 2015, the Ministry of Health, Labor and Welfare promotes "Long-Term Care and Nursing Care Cooperation Promotion Project" and the number of nursing home for elderly people will further increase in the future. It is likely that homebound dental care, not only denture treatment but also functional training such as professional oral health care and eating swallowing rehabilitation, will be focused on more and more.

Key words：homebound dentistry, old age, professional oral health care

緒　　言

わが国は超高齢社会を迎え，要介護高齢者も著しく増えている．全国の高齢化率は26.7%，後期高齢化率は12.8%，岐阜県の高齢化率28.1 %（65歳以上の人口567,571名），後期高齢化率13.6%（75歳以上の人口275,543名）である[1]．2010年から2015年までの65歳以上の人口の増加率は全国で15.4%，岐阜県で13.7% である．岐阜県の要支援・要介護認定者数は，2000年４月の介護保険制度の施行時，34,622名から，2015年12月末95,700名と約2.8倍に増加している[2]．2008年に在宅療養支援歯科診療所制度が創設され，在宅療養支援歯科診療所は増えているものの，全歯科診療所の約９％にとどまっている[3]．厚生労働省では2015年から「在宅医療・介護連携推進事業」を進めており，今後高齢者を対象とした施設が増え，さらに訪問歯科診療の需要が増すと考えられる．

朝日大学 PDI 岐阜歯科診療所では，2012年11月から訪問歯科診療を実施している．のべ診療数は2012年60名，2013年753名，2014年1,453名，2015年2,129名と年々増加している．2012年11月から2015年６月までの２年８か月間に182名の患者の診療を行った．このうち65歳以上の171名について診療の概要，問題点，今後の課題ならびに歯科治療へのニーズを検討した．

対象と方法

１．対象

対象は，2012年11月から2015年６月までの２年８か月間に朝日大学 PDI 岐阜歯科診療所が訪問歯科診療を行った182名のうち，65歳以上の171名とした．

なお，本調査は朝日大学倫理委員会で承認を得た．（承認番号第23126号）

２．方法

訪問歯科診療の診療録に基づいて実態調査を行った．項目は，性別，年齢，診療場所（居宅･施設），主訴，治療内容，基礎疾患，要介護度，歯科治療時の患者状況，義歯の使用状況である．歯科治療時の患者状況は，初診時に座位の保持，意思の疎通および含嗽の可否について，歯科医師が主観的評価を行った．

結　　果

１．対象

対象者171名の内訳は，男性57名，女性114名であり，男女比は１：２であった．最高齢者は99歳女性，最年少者は66歳男性であり，平均年齢は83.8歳（男性82.6歳，女性84.4歳）であった．75歳以上の対象者が全体の約９割を占め，年齢分布では85～89歳が最も多かった（図１）．

診療場所は，居宅が男性15名，女性25名の計40名，

施設は男性42名，女性89名の計131名であった．どちらも女性が多く，施設では女性が男性の倍以上であった．

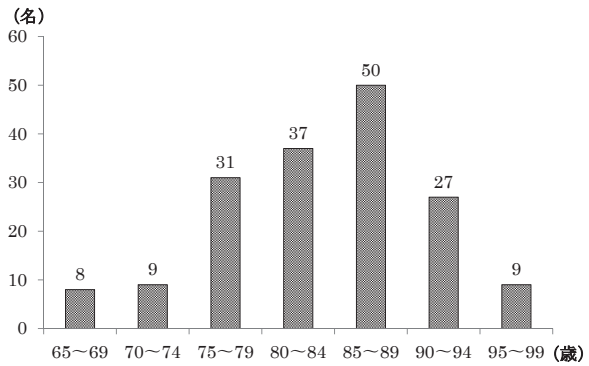

図１　年齢による分布

75歳以上の対象者が全体の約９割を占め，平均年齢は83.8歳であった．

２．主訴および治療内容

主訴は，義歯に関するものが84名と全体の49.1%を占めた．歯冠修復物脱離29名のうち26名が再着不能であった．歯周疾患が24名，う蝕歯が14名，専門的口腔ケアが12名であった（表１）．

表１　主訴

	65～74歳	75歳以上	合計
義歯関連	6	78	84
歯冠修復物脱離	5	24	29
歯周疾患	3	21	24
う蝕歯	2	12	14
専門的口腔ケア	0	12	12
その他	1	7	8
合計	17	154	171（名）

治療内容は各々の治療が完了した時点でののべ人数とした．補綴治療は，義歯新製が61名，増歯を含む義歯の修理・調整が56名，歯冠修復物新製が５名，歯冠修復物再着が３名であった．抜歯36名中，重度歯周病（12名），残根（16名），根尖性歯周炎（３名），歯根破折（１名）であった．口唇を咬傷し潰瘍が生じたため，原因歯を抜歯した４名は，脳梗塞後遺症のため，要介護度４あるいは５であり，意思疎通不可能であった．保存治療25名，歯周治療12名，根管治療４名であった（表２）．16名が専門的口腔ケアのみ，81名が他の治療と並行して専門的口腔ケアを行った．治療終了後，対象者171名のうち88名（51.5%）が定期的に専門的口腔ケアを継続して行っている（図２）．

表２　治療内容（複数記載）

	65～74歳	75歳以上	合計
補綴治療	9	116	125
義歯新製	3	58	61
義歯修理・調整	6	50	56
歯冠修復物新製	0	5	5
歯冠修復物再着	0	3	3
抜歯	4	32	36
保存治療	4	21	25
歯周治療	5	7	12
専門的口腔ケアのみ	2	14	16
根管治療	0	4	4
その他	0	10	10（名）

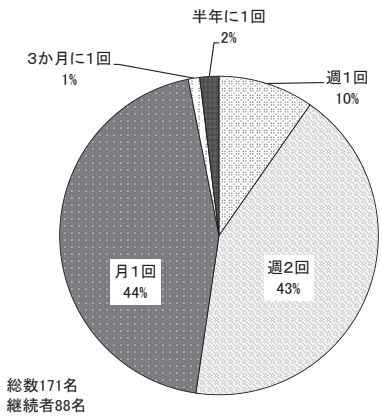

図２　治療終了後の専門的口腔ケア継続者の割合

対象者171名のうち定期的に専門的口腔ケアを継続していた88名の割合を示す．

３．基礎疾患

対象者171名は全員が基礎疾患を有しており，148名が複数の基礎疾患を有していた．認知症やパーキンソン病などの神経系疾患が75 名（43.9%），脳血管疾患が64名（37.4%），循環器疾患が62名（36.3%），脊椎脊髄疾患が46名（26.9%），糖尿病が13名（7.6%），がんが６名（3.5%），関節リウマチが４名（2.3%）であった（表３）．

表３　基礎疾患（複数回答）

	65～74歳	75歳以上	合計
神経系疾患	5	70	75
認知症	4	58	62
パーキンソン病	0	7	7
脳血管疾患	10	54	64
循環器疾患	8	54	62
脊椎脊髄疾患	4	42	46
糖尿病	3	10	13
がん	1	5	6
関節リウマチ	0	4	4
その他	4	14	18（名）

4．要介護認定

対象者171名のうち，要介護認定者は156名であった．要介護度の内訳では，日常生活ではほぼ全面的な介護が必要とされる要介護３は42名，要介護度４が35名，要介護度５が31名であった（図３）．

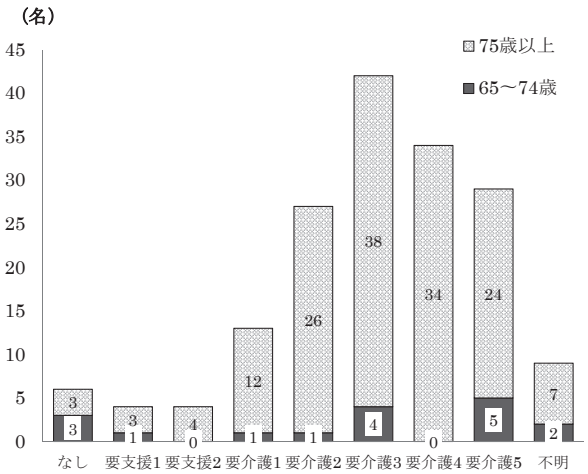

図３　要介護認定

対象者171名の養介護度を65～74歳，75歳以上に分けて示す．

5．歯科治療時の患者状況

座位保持可能が147名（85.4%），意思疎通可能が137名（80.1%），含嗽可能が142名（83.0%）であった（表４）．意思疎通の判定は，歯科治療時の開口や含嗽の指示が伝われば「可能」とした．

表４ 座位保持，意思疎通，含嗽の可否

		65～74歳	75歳以上	合計
座位保持	可	14	132	146
	不可	3	22	25
意思疎通	可	13	124	137
	不可	4	30	34
含嗽	可	14	128	142
	不可	3	26	29（名）

5．義歯の使用状況

義歯を使用している者は124名（72.5%）おり，男性46名（81.0%），女性78名（68.4%）であった（表５）．重度の認知症により拒否が強く２名が義歯の使用不可能であった．

表５ 義歯の使用状況

		65～74歳	75歳以上	合計
男性	使用	6	40	46
	不使用	2	9	11
女性	使用	4	74	78
	不使用	7	29	36（名）

考　　察

今回の調査において男女比は１：２と女性が多く，従来の報告と同様に女性が多かった．これは，日本人女性の平均寿命の高いことを反映しているものと考えられる．

義歯に関する訴えが多い理由としては，75歳以上の対象者が全体の約９割を占め，義歯の使用率が高いこと，また義歯の不具合が食事をすることに直結するためと考えられる．治療に関しては，補綴治療についで抜歯が多く，従来の訪問診療の調査報告[4-14]と同様であった．義歯関連以外の主訴の場合でも，再着不能な脱離や外科処置が補綴処置についで多く，義歯治療の増加につながった．

診療環境が十分でない場合や協力の得られない患者の場合，応急的な保存処置が多かった．訪問歯科診療では，訪問先に歯科診療の設備がなく[11]，器具・機材を持参する必要があり，処置内容は限られる．携帯可能な診療器具・機材の充実できれば，治療範囲が広がり，保存治療や歯周治療が増えると考えられる．

治療方針の決定では患者本人のほか，その家族の意向を考慮する必要がある．協力を得られにくい患者や，家族と本人の意向が異なる場合もある．当診療所は，本人と家族，施設職員，ケアマネージャーと相談して治療方針を決定している．

対象者171名の全員が基礎疾患を有しており，認知症やパーキンソン病などの神経系疾患，脳血管疾患および循環器疾患が多く，他の訪問診療[4,8-10]と類似していた．桑澤ら[5]も述べているように，要介護高齢者のQOLを高く保つためには幅広い知識と各専門診療科の連携は必要である．口腔機能の回復は，患者のADLの向上にもつながる[13]．

専門的口腔ケアを行った患者は全体の半数を超えていた．12名が専門的口腔ケアを主訴とし，このうち４名に誤嚥性肺炎の既往があった．８名が意思疎通不可であり，介護者による口腔ケアが難しかった．施設職員や家族を対象に口腔衛生指導を行ったが，他の業務，仕事等の関係から口腔ケアまで手が回らない場合もある．専門的口腔ケアは誤嚥性肺炎予防に効果があ

る[15,16]．治療後も良好な口腔環境を維持できるように，日常の口腔ケアの支援や健診等も含めた歯科専門職の維続的な関わりが必須である．

鶴巻ら[17]は口腔機能に問題があっても放置されていることから，不具合をうまく伝えることができない入所者が多数存在すると推察している．口腔機能低下を認識し，要介護高齢者の口腔管理を行なうため歯科専門職の早期介入は必須である．訪問歯科診療は，義歯などの歯科治療だけではなく，専門的口腔ケアや摂食嚥下リハビリテーション等，口腔機能向上のため重要である．

結　論

今回，2012年11月から2015年６月までの２年８か月間において，朝日大学 PDI 岐阜歯科診療所が訪問歯科診療を行った65歳以上，171名の実態調査を行なった．

1．対象者は男性57名，女性114名であり，平均年齢は83.8歳（男性82.6歳，女性84.4歳）であった．
2．主訴は，義歯関連が84名（49.7%）と約半数をしめ，治療内容も義歯新製，義歯修理・調整などが117名（68.4%）であった．
3．治療終了後，88名が継続して定期的専門的口腔ケアを行った．
4．対象者171名は全員が基礎疾患を有し，要介護認定者は156名であった．
5．治療時の患者状況では坐位の保持，意思疎通，含嗽ともに８割以上が可能であり，義歯を使用している者の割合は，72.5% であった．

文　献

1）総務省統計局．平成27年国勢調査．人口等基本集計結 果．2016年12月16日．http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/kekka.htm
2）厚生労働省．平成27年度介護保険事業状況報告（年報）．都道府県別　要介護（要支援）認定者数　男女 計 - 総 数 -．2017年６月20日．https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450351&tstat=000001031648
3）厚生労働省．中央社会保険医療協議会　総会（第343回）議事次第　在宅医療（その１）について．2017年１月11日．http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000148091.html
4）佐藤真弥子，角田左武郎，羽島睦津美，南雲正男．特別養護老人ホームにおける訪問歯科診療について．昭歯誌．2000; 20: 252-258.
5）桑澤実希，北川 昇，佐藤裕二，赤坂恭一朗，金原大輔，瀬沼壽尉，吉岡達哉，石橋弘子，今井智子，新井 元，杉山雅哉，吉江正隆．特別養護老人ホームにおける訪問歯科診療の実態．昭歯誌．2004; 24: 387-390.
6）金 容善，丹羽 均，高木 潤，崎山清直，市林良浩，神吉利美，久山 健，松浦英夫．特別養護老人ホームにおける歯科診療 - 第３報　診療経過からみた歯科医療の必要性と問題点について -．老年歯学．1997; 12: 18-25.
7）角田佐武朗，佐藤真弥子，羽島睦津美，木村有子，前里菜穂子，日山邦江，斉田昭子，南雲正男．特別養護老人ホーム入居者の口腔内実態調査．昭歯誌．2000; 20: 112-116.
8）佐藤格夫，浅沼直樹，黒川裕臣，江面 晃，新海航一，深井畑好昭．新潟県の老人福祉・保健施設における歯科検診と治療．老年歯学．1998: 207-212.
9）金 容善，神吉利美，藤田 弓，久山 健．特別養護老人ホーム入所者における要介護状態区分別にみた歯科診療について．老年歯学．2000; 15: 152-154.
10）森田浩光，山口真広，藤本暁江，縄田和歌子，湯川成美，牧野路子，加藤智崇，瀧内博也，米田雅裕，内藤 徹，廣藤卓雄．歯科診療部門を持たない地域密着型急性病院への訪問歯科介入の調査報告．老年歯学．2015; 30: 337-342.
11）栗原由紀夫，小野　毅，鈴木郁夫，平川彰生．三島市歯科医師会における在宅者訪問歯科診療への取り組み．老年歯学．1997; 12: 61-66.
12）栗原由紀夫，鷲巣暢夫．三島市歯科医師会における在宅者訪問歯科診療への取り組み（第2報）．老年歯学．2014; 29: 302-306.
13）杉原直樹，眞木吉信，高江洲義矩，関口 基，金子充人，砂川 豊，伊藤 卓，大木保秀，喜多詰規雄，後藤佳文，白鳥 修，土田和由，湯浅太郎，小林健一．千葉市における在宅要介護老人の歯科保健に関する実態調査（第２報）老年歯学．1993: 53-63.
14）田村道子，佐藤尚弘，品田佳世子，三浦宏之，川口陽子．新宿区における在宅歯科訪問診療に関する統計調査．口病誌．2010: 307-312.
15）米山武義，鴨田博司．口腔ケアと誤嚥性肺炎予防．老年歯学．2001; 16: 3-13.
16）Yoneyama T., Yoshida M., Matsui T., and Sasaki H.. Oral care and pneumonia. Lancet. 1999: 354-515.
17）鶴巻 浩，勝見裕志二，黒川 亮．歯科口腔外科を有する病院併設の介護老人保健施設入所者に対する歯科治療の実態調査．老年歯学．2011; 26: 362-368.